


 受賞の言葉

やましげ しんじ

1985 年一橋大卒、92 年ジョーンズ・ホプキンス大より Ph.D.(経済学)取得。トロント大助教授などを経て、2007 年より一橋大大学院経済学研究科准教授・国際・公共政策大学院准教授。62 年生まれ。



変わる社会、変える未来

一橋大学准教授 山重慎二

日本社会は、戦後大きく変容した。特に、家族の変容は顕著である。たとえば「サザエさん」の家のような三世同居は、かつては普遍的に見られた。しかし、市場経済の浸透とともに、人々は親を残して地元を離れ、流動的な社会の中で孤立的に生きるようになった。地域社会とのつながりも薄れ、貧困に陥るリスクも高まった。そして人々は政府による社会保障を求めるようになった。

本書は、このように変わりゆく日本社会の構造を、近年発展してきた家族や共同体に関する経済分析に基づいて明らかにし、少子高齢化、生活格差、地域格差といった社会問題を取り上げて、これからの家族や社会のあり方について、そして望ましい政策のあり方について考察した本である。

最新の人口推計によれば、日本の人口は 2082 年には半減する。しかし、未来は、私たちの選択によって変えられる。エピローグで提示した私の選択は、今を生きる多くの人にとって、違和感のあるものかもしれない。しかし、市場経済をベースとして、公平で、効率的で、安定的な社会を構築するという観点から、現実的選択を考えていくと、現時点では、この選択しかないと感じる。ただし、まだ十分考慮できていない選択肢もある。まだ発展段階にある私の研究に、名誉ある賞を与えて頂いたことへの感謝と責任を感じながら、今後とも経済学的思索や分析を深めていきたい。

なお、本書では、分析や提案の基礎となる経済学のモデルの説明も行われるが、結果の直観的な意味については平易な言葉で説明することを心がけた。数学的な章は読み飛ばしても、基本的な主張は理解して頂けるのではないと思う。日本社会の変容、そして政策のあり方に関心を持っておられる多くの方に読んで頂き、考えるヒントを見つけて頂けたら幸いである。